

東京大学とノースウェスタン大学の教授陣がジェンダーと AI について議論しました。

2022年10月28日、ノースウェスタン・ロベルタ・バフェット研究所は、「ジェンダーと AI (人工知能) - AI 時代における社会正義と権利保護への取り組み」と題したグローバルかつ学際的なトークイベントを開催しました。

このイベントでは、東京大学とノースウェスタン大学の教授陣が、社会構造がどのように AI を形成してきたか、そして AI が私たちの社会や生活をどのように変容させつつあるかについて議論しました。パネリストは、テクノロジーがどのように不平等を生み出し、悪化させたかという過去と現在の事例をもとに、デジタルテクノロジーと AI が将来、ジェンダー平等を支援し、平和を促進するためにどのように活用されうるかについて考察を深めました。

司会は、ノースウェスタン大学国際戦略担当副学長兼ロベルタ・バフェット研究所長の**アナリサ・ライルズ**氏が務めました。東京大学からは、メディア・ジャーナリズム研究科教授で、B'AI グローバル・フォーラムの創設者であり、ジャーナリズムにおける女性の地位とメディアにおける女性の表現の専門家である**林香里**副学長が参加しました。林氏は、東京大学の歴史学教授で B'AI グローバルフォーラム事務局長の**板津木綿子**氏とともに、AI が社会に普及することについてしっかりと検証を行うことを提唱しています。ノースウェスタン大学からは、近世・近代日本の社会史家で女性史を専門とする**エイミー・スタンリー**氏と、コンピュータサイエンス学部の助教授で、人間の創造性を補う AI を設計するアーティスト、発明家、プログラマーでもある**ケイト・コンプトン**氏が参加しました。コンプトン氏は、Twitter 上で 1 万を超えるコミュニティによるボットを運営する Tracery という言語のオープンソース開発者でもあります。

ここでは、この女性だけのパネルディスカッションの中から、特に印象に残ったものをご紹介します。

- AI は私たちの生活のあらゆる領域の陰に潜っていますが、その存在はほとんど意識されずにいます。現代生活のあらゆる場面で、人工知能が介在することが多くなっています。例えば、携帯電話を使うといった日常的な行動は、データを生み出し、それを読み取り、解釈し、私たちの興味に合うと判断された情報を提供するために使われ、「ニュース」として一見中立的な形で私たちに提示されるのです。人工知能は、このような日常生活の多くのプロセスの背後にありながら、目に見えないままです。私たちのデータ

がどのように収集され、人工知能に利用されているのか、個人は十分に理解していませんし、私たちがそれについて意見を述べることはめったにありません。

- **AI は試練と好機をもたらします。** AI は女性や LGBTQI+ のコミュニティにとって特有の試練をもたらします。なぜなら、アルゴリズムとアテンションエコノミーは、オンラインで憎悪を広めるアンチフェミニストやアンチ LGBTQI+ のグループの声を増幅させる可能性があるからです。日本の反フェミニスト・グループが、米国の反フェミニスト・グループから発信されるトランスジェンダーの人に対する不寛容、否定的な情報を引用し、その意見を取り入れることは、このような事態を招きます。しかし、アルゴリズムが憎悪の推進派たちを国境を越えてつなげることができるように、フェミニストの学者、研究者、活動家たちをつなぐこともできます。オフラインでは出会うことがなかった様な世界中の人々を結びつけ、彼らのコラボレーションを可能にすることができるのです。
- **女性が創設し、女性が運営しているデジタルスペースを探してみましょう。** デジタルスペースの主流はインターネットが男性に支配されているという印象を与えるかもしれませんが、特に AI とプログラミングや技術スキルが交わる分野では、女性やノンバイナリーのための、そして女性によるスペースが増えてきています。これらのオンラインスペースでは、女性や LGBTQI+ が特定の興味やサブカルチャー、政治的な所属のもとに集うことができます。
- **AI は地政学および文化的背景によって形作られます。** 米国と中国は、AI の最大の国家規模の開発者であり、その防衛用途にかなりの資金を投じています。欧州連合は、最も厳格な AI 技術の規制を提唱しています。これらの主要国以外のアジア太平洋地域、アフリカ、南米の多くの国々では AI の開発は限定的か、あるいは存在しません。しかし、AI 開発についてどう感じているかを尋ねた最近の世界的な調査では、興味深い矛盾が生じています。アメリカ人とヨーロッパ人は悲観的で、AI は個人と市民の自由を著しく制限しかねない存在であり続けると見ているのに対し、アフリカと南米の人々は、AI が自由と平等をもたらすのに役立つとはるかに楽観的であることがわかります。また、多様な文化的背景を持つ人々は、プライバシーや AI に関連するさまざまな倫理的問題について異なる考えを持っていることも研究で示されています。AI に関する規制の試みが、現在のように欧米中心であり続けると、重要な地域的・文化的相違点を見落とす危険性があります。

- 私たちには AI 研究が必須です。歴史上の様々な技術シフトの社会的影響を振り返ってみると、今こそ AI の開発に力を注ぐべき時であることがわかります。大学の目標は、クリティカル AI 研究という名で学際的な対話を行い、最終的には、AI の潜在的な応用とその社会的な影響の検証に関心を持つ複数の関係者によるグローバルなフォーラムになることです。この重要な試みは、AI 産業に影響を与え、AI 開発に順応するのではなく、リアルタイムで軌道修正しながら進めていく必要があります。
- コンピュータ・プログラミングは、文章を書くことと同じくらい重要なスキルです。文章を書くことが文学部やプロの作家を目指す人だけのものでないように、コンピュータ・プログラミングはコンピュータサイエンティストのためだけのものではありません。現代社会において、コンピュータ・プログラミングは、データがどのように収集され、分析され、利用されるかを理解するための、力を与えるスキルです。また、誰もが創造的、芸術的、そして行動的な目的で使用できるスキルであり、さまざまな社会正義のプロジェクトに活用することができるのです。

Northwestern Buffett Fireside Chats トークイベントは、世界情勢に関する論議の場を提供しています。

本イベントの録画は、Northwestern Buffett YouTube Channel

(<https://www.youtube.com/watch?v=5Ebs0bGxGVI>) でご覧いただけます。